

別紙

株式会社 ヒロタニ 志和工場 温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 ヒロタニ 志和工場

(2) 事業所の所在地

〒739-0269

広島県東広島市志和町志和堀1153-10

(3) 業種

自動車部分品、付属品製造業 (3113)

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成22(2010)年度を基準年度とし、平成23(2011)年度から平成27(2015)年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1：環境方針

当社は、自動車用内装部品を主に生産する会社として開発・設計・製造・販売・サービスの事業活動の中で環境保全が会社に貢献することを認識し、地球環境保護と、会社の永続的発展に努め環境保護に努めます。

2：そのために

①：当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を認識し、環境汚染の予防活動に努め、環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善に取り組めます。

②：当社の環境側面に適用される法的要求事項並びに当社が同意したその他の要求事項を順守します。

③：当社の環境側面のうち、次の事項を重点活動項目として取り組めます。

(1)：省資源の推進

(2)：省エネルギーの推進

(3)：廃棄物の低減

(4)：環境にやさしい商品開発

④：環境方針を達成する為に、環境目的及び環境目標を定め、定期的に見直し、継続的改善に努めます。

⑤：環境方針は、全従業員及び協力企業構成員に周知させ、環境意識の高揚に努めると共に、一般の人にも開示します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素	燃料の使用		479	413
	他人から供給された熱の使用			
	他人から供給された電気の使用		4314	4780
合 計			4793	5193

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素				
合 計			0	0

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF ₆				
合 計			0	0

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成22年度)	削減目標		目標年度 (平成27年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	-			
非エネルギー起源CO ₂	-			
メタン	-			
一酸化二窒素	-			
フロン類	-			
温室効果ガス 実排出量総計	-			
温室効果ガス みなし排出量	-			
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：生産量(個)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位置量(kg等)，削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成22年度)			原単位 削減 目標	目標年度 (平成27年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減 率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	4,793	22,320,000	0.00021	6	5,134	25,668,000	0.00020
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量	4,793	22,320,000	0.00021	6	5,134	25,668,000	0.00020
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は原単位ベース年1.2%の削減率 生産量は年3%の上昇率						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	灯油の使用量を削減	省エネ型熱源機器への変更 配管保温材の修正&改修
2	電気使用量の削減	電気使用量を6%削減	1. 工場電気監視装置の設置 2. プレス作動油を省エネタイプへ変更 3. 照明機器の見直し 4. 各照明の照度調整&間引き消灯 5. 冷暖房温度の適正 冬23℃夏28℃ 6. 受電設備のトランスを省エネトランスへ変更 7. 天井扇の間引き運転 8. 金型使用2時間前の電源ONの厳守 9. デマンド設定値を10%落としピーク超予防 10. 総合事務所休憩時間の消灯 11. 総合事務所昼間照明の減光 12. 総合事務所外の減光 13. 水曜日の定時退社日の厳守、事務所完全消灯
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

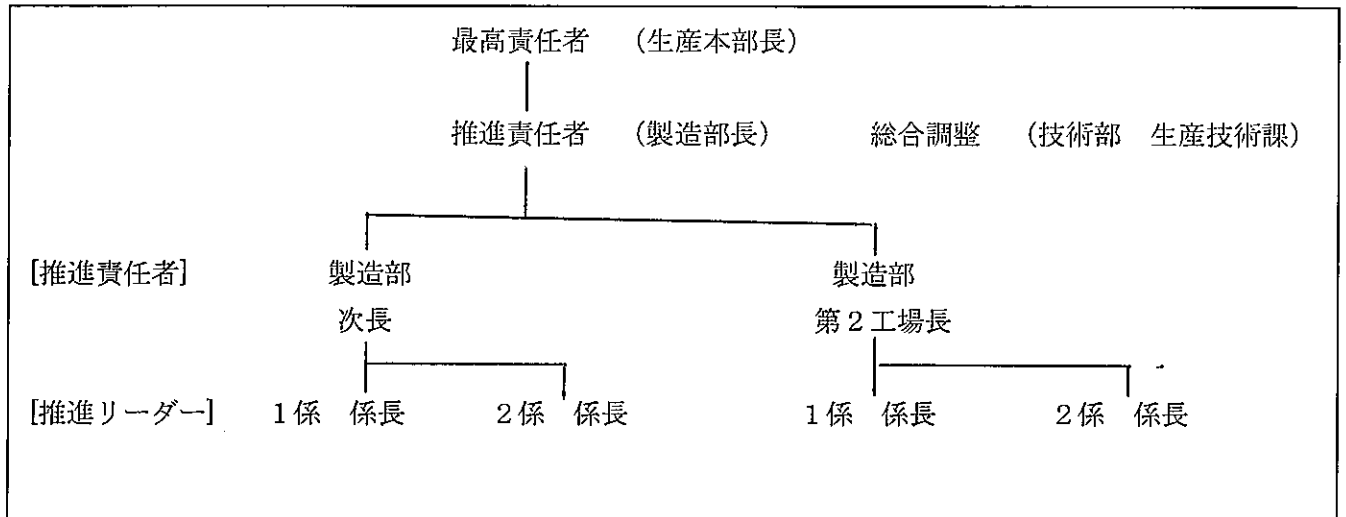
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

技術部生産技術課を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組み状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、社内会議にて定期的に評価・見直し等を行い継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

- ・ 事業所に備え付けて閲覧する
- ・ 毎年度発行、温室効果ガス削減実施状況報告書において、計画内容及び進捗状況を掲載する。